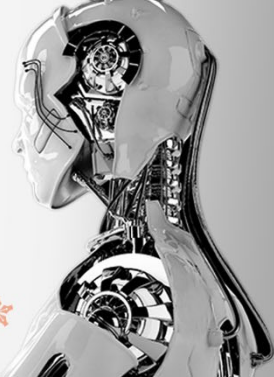


Robotics Report

新たな常識のはじまり

ロボティクスビジネスの トレンドと革新

nikko am
fund academy



2020年、世界のロボットビジネスはどのようなトレンドを描くのか。今回は、世界で最も権威あるロボット研究コンサルティング機関の1つとされる「ロボティクス・ビジネス・レビュー」（以下、RBR）が発表した「RBR50 ロボティクス・イノベーション・アワード」から、その傾向を探ってみます。

? 最もイノベティブとされるロボティクス企業の傾向は

RBRは2012年から毎年、革新性に富んだロボティクス企業の上位50社を発表しています。今年選定された企業の内、42社が米国を活動拠点としていたことが特徴的でした。

関連分野	選定された主な企業
自動運転、 倉庫・配送	Apex.AI Inc(米)、Nuro(米)、Waymo(米)、Sense Photonics(米) など
部品、AI ソリューション	Fetch Robotics(米)、Geekplus Technology Co(中)、Locus Robotics(米) など
協働ロボット	Soft Robotics Inc.(米) Universal Robots A/S(米)、Veo Robotics Inc.(米) など

出所:「RBR50 Robotics Innovation Awards」2020年版をもとに日興アセットマネジメントが作成

分野別では、自動運転関連および倉庫・配送センター用のサービスロボットや、部品、AIソリューションを開発する企業が目立ちました。

ここ数年注目される協働ロボット関連では、ロボットアームに装着する高性能グリッパーを提供する企業や、安全性をコントロールするシステムを提供する企業が選定されています。

また、サービスロボットを手掛けるBoston Dynamics(米)やiRobot(米)、LiDARカメラを手掛けるIntel(米)、プロセッサを手掛けるNVIDIA(米)などの大手企業も選定されました。

? 自動化に挑戦する新たなロボティクス企業とは

今回のアワードでは、社会空間で活躍するロボットを開発する企業も多数選定されています。

- ・ごみを自動分別するロボットを開発する AMP Robotics(米)
- ・林業・農業向けロボットを開発する Robotics Plus(ニュージーランド)
- ・重機の自律ロボット化を支援する Built Robotics(米) など

また、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に、医療現場で活躍するロボット開発企業が選定されたことも特徴的でした。

- ・消毒用ロボットメーカーの Blue Ocean Robotics ApS(デンマーク)
- ・看護師を支援するロボットを開発する Diligent Robotics Inc.(米) など



※消毒ロボットのイメージです。

これまで、産業用ロボットを開発する大手メーカーが“ロボット企業”の代名詞でしたが、今回のアワードではあまり名前が挙がりません。このことは、産業用ロボットの需要が減ったということではなく、「ロボットが活躍する領域が増えつつある」と捉えるべきなのでしょう。“ロボティクス化”は、今後もその範囲と規模を着実に広げていくと期待されます。

上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

(当レポートは、株式会社ロボティアの情報をもとに日興アセットマネジメントが作成しています。)

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。